KA022-2607

プロテオミクス（DIA法）

研究検査

2026年7月現在

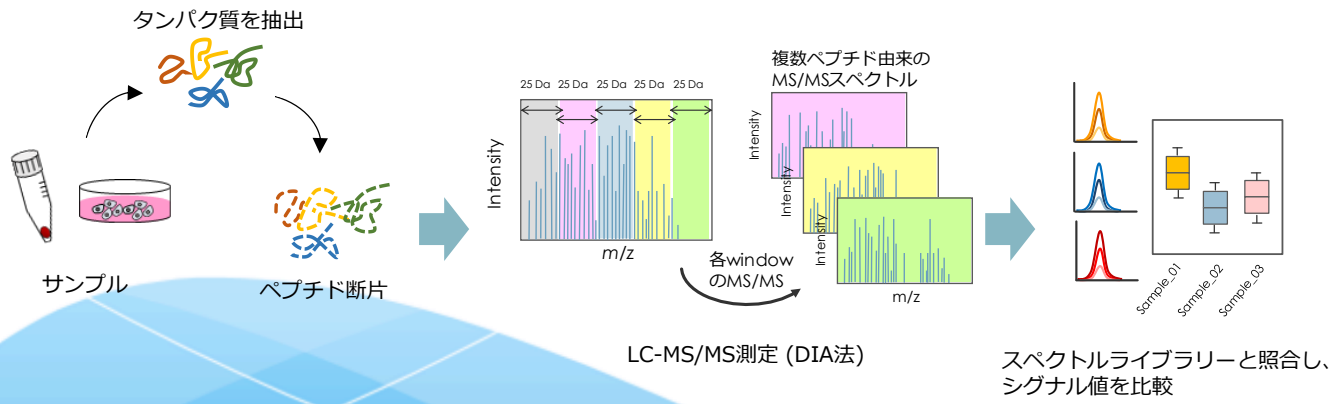
検査概要

検　査　法	質量分析装置（LC-MS/MS）
取得データ目安	ディープ：～ 9000 タンパク質 ウルトラディープ：～12,000タンパク質
材　　料	培養細胞、凍結組織、血清、血漿、FFPEなど
調 製 方 法	培養細胞：培地を除去し、PBSで 2 回洗浄後、-80℃以下で保存 組織：PBSで血液を除去し、-80℃以下で保存 その他の材料につきましてはお問い合わせください
必　要　量	培養細胞：1×10^5 以上、組織：0.1 mg 以上 その他の材料につきましてはお問い合わせください
納　　期	検体受領後 4週間程度
納　品　物	MS測定データ (.rawファイル)、タンパク質同定・相対定量解析データ、 観測されたタンパク質名・タンパク質の定量値などを記載したリスト(Excel)

本測定はかずさDNA研究所にて実施いたします

DIAプロテオーム解析とは

プロテオーム解析では、タンパク質をトリプシン消化し、生成されたペプチドを質量分析計に導入して解析を行います。DIA (Data-Independent Acquisition) 法は、質量分析計に導入されたすべてのペプチドのスペクトルデータを取得する方法です。得られたスペクトルデータは、解析ソフト上でスペクトルライブラリーと照合され、ペプチド配列が同定されます。
この方法により、ヒト培養細胞では一度の測定で数千種類、装置や条件によっては1万を超えるタンパク質についてデータが取得可能です。また、ゲノムデータが利用可能な生物であれば種を問わず同じ手法を適用できるため、基礎生物学から臨床プロテオミクスに至る幅広い研究分野での応用が期待されます。



測定メニュー

DIAによる高深度発現プロテオーム解析

測定メニュー	測定機器	取得データ目安
ディープDIAプロテオーム解析	Orbitrap Exploris 480	～9,000 タンパク質
ウルトラディープDIAプロテオーム解析	Orbitrap Astral	～12,000 タンパク質

以下、取得データ目安の部分をディープ／ウルトラディープのパターンに分別して表示

血漿／血清 他 低侵襲検体を対象とするプロテオーム解析

測定メニュー	測定機器	取得データ目安
TomAP-MSによる血清/ 血漿プロテオーム解析（1）	Orbitrap Astral	血漿：～6,000／～8,000 血清：～5,000／～7,000
高存在量タンパク質除去による 血清/血漿プロテオーム解析（2）	Orbitrap Exploris 480 ／Orbitrap Astral	～1,500／～3,000
乾燥ろ紙血からのDIAプロテオーム解析 （3）	Orbitrap Exploris 480 ／Orbitrap Astral	～3,000／～7,000

（1）多検体分析のニーズに対応するため、本メニューのディープのみショートグラジエントのAstralによる分析を実施
（2）ヒト：Top14除去、マウス、ラット：albumin/IgG除去、その他：albumin除去
（3）独自のNANDA法処理により高深度な解析が可能

翻訳後修飾を対象としたプロテオーム解析

測定メニュー	測定機器	取得データ目安
リン酸化 DIAプロテオーム解析	Orbitrap Exploris 480 ／Orbitrap Astral	～15,000/～30,000 リン酸化ペプチド

DIAによるゲル中タンパク質の高感度同定解析

測定メニュー	測定機器	取得データ目安
ゲル内タンパク質同定（DIA解析）	timsTOF HT	ー

ほかにも多数のメニューがございます。お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ
KPSL 九州プロサーチLLP
〒819-0388
福岡県福岡市西区九大新町4-1
九州プロサーチ有限責任事業組合
https://kpsl.jp/